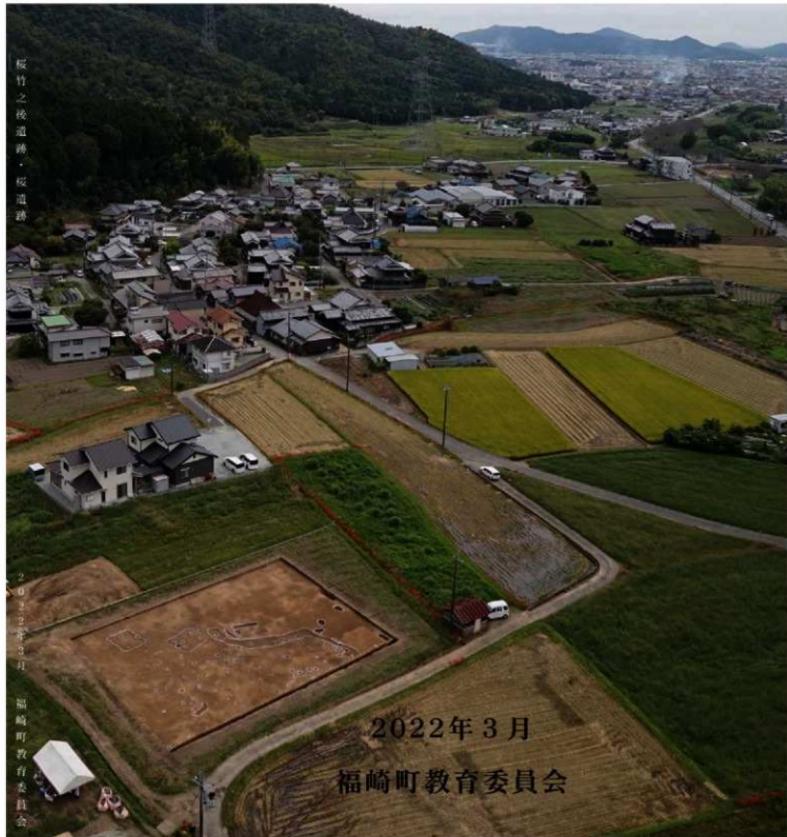


# 桜竹之後遺跡・桜遺跡

—高岡・福田地区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



# 桜竹之後遺跡・桜遺跡

—高岡・福田地区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2022年3月

福崎町教育委員会

## あ い さ つ

平成 27 年度から高岡・福田地区のは場整備事業に伴い、試掘調査を実施し、埋蔵文化財に影響がある箇所について発掘調査を進めてまいりました。今回報告書を刊行する桜竹之後遺跡は、調査の結果、新たに見つかった遺跡です。その他にもこれまで知られていなかった遺跡が私たちの前に姿を現しており、地域のみなさまにその成果をひろく還元する必要があると感じています。

このたび、令和 2 年度に実施した桜竹之後遺跡の発掘調査の発掘調査成果をまとめ、報告書を刊行いたしました。広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にあたり地元関係者をはじめ多くの方々に、ご理解とご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。

令和 4 年 3 月

福崎町教育委員会  
教育長 高橋 渉

## 例 言

1. 本書は高岡・福田地区は場整備に伴って調査を実施した兵庫県神崎郡福崎町高岡に所在する桜竹之後遺跡・桜遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は平成 29 年度に試掘確認調査を行い、令和 2 ・ 3 年度に本発掘調査を行った。調査は福崎町教育委員会が実施した。
3. 試掘確認調査経費は国庫補助金を充て、本発掘調査ならびに整理調査は事業主体者が負担し一部国庫補助金を充てた。
4. 本書に使用した方位は基本的に磁北で、標高は福崎町設定の基準点を使用している。
5. 本書に掲載した図のうち遺跡位置図は福崎町発行の都市計画図（1/10,000）を、調査区配置図は福崎町都市計画図（1/2,500）を編集したものである。
6. 執筆編集は樋口・梶・福永・原井川・常陰の協力を得て渡辺が行った。
7. 本報告に係る図面、写真、遺物等は、福崎町教育委員会にて保管している。
8. 調査・整理作業において多くの方々にご助言・  
ご協力を戴いた。また、多くの方々や機関にご指導・  
ご協力を戴いた。特に地元桜区の方々、調査に参  
加戴いた方々には感謝します。



図 1 福崎町の位置

## 本文目次

I はじめに	
1. 調査に至る経緯と経過	1
2. 周辺の環境	4
II 桜竹之後遺跡の調査	
1. 調査の概要	7
2. 遺構	7
3. 遺物	16
III 桜遺跡の調査	
1. 調査の概要	20
2. 遺構	20
3. 遺物	26
IV おわりに	31

## 図目次

図 1 福崎町の位置	
図 2 調査地の位置	1
図 3 試掘確認調査・本調査位置図	2
図 4 桜竹之後遺跡・桜遺跡の位置と周辺の遺跡	5
図 5 西壁土層断面図	7
図 6 桜竹之後遺跡平面図	8
図 7 SH01実測図	9
図 8 SH02実測図	10
図 9 SB01・SB02実測図	11
図10 SB03実測図	13
図11 SX01実測図・SD断面図	13
図12 SK・SA01実測図	14
図13 SK02・04実測図	15
図14 出土遺物実測図(1)	17
図15 出土遺物実測図(2)	18
図16 1区平面図	20
図17 1区土層断面図	21
図18 2区土層断面図	21
図19 2区平面図	22
図20 2区遺構実測図	23
図21 3区平面図	25
図22 3区土層断面図	26
図23 3区遺構実測図(1) (SB01・SB02)	27
図24 3区遺構実測図(2) (SB03・SB04)	28
図25 出土遺物実測図	29

# I はじめに

## 1. 調査に至る経緯と経過

福崎町では高岡福田地区においては場整備事業が計画された。事業地内には周知の埋蔵文化財包蔵地である観音堂遺跡・宮ノ前遺跡・前田遺跡・林谷遺跡・狐塚遺跡が存在するが、それ以外の遺跡の存在も想定されたので、計画策定期段階から埋蔵文化財取り扱いの協議がなされた。通常の進め方で事業用地内の分布調査を実施し、その結果などから試掘確認調査を行い、遺構面が保全されない部分について本発掘調査を実施することとした。

調査はすべて福崎町教育委員会が主体となって行った。進捗実施にあたっては、事業主体である兵庫県中播磨県民局土地改良センターならびに福崎町農林振興課・土地改良区・地元と協議しながら実施した。調査にあたっては多くの方々の協力を得ました。感謝いたします。

## 2. 分布調査

平成27年度から分布調査を開始し、平成29年度に終了した。南工区からはじめ、北工区に移動した。福崎町作成の図（1,000分の1）を利用して、筆ごとに採集点数をカウントした。調査では分布調査成果に地形も考慮して、遺跡範囲を囲った。当該遺跡周辺は平成29年度2月から5月にかけて行った。

調査参加者：樋口 碧・玉田誠司・渡辺 昇・梶 智美

## 3. 試掘確認調査の経過

分布調査成果をもとに試掘確認調査を行った。平成28・29年度に5期に分けて調査を実施した。当該遺跡（桜竹之後遺跡・桜遺跡）部分は北工区を対象とした平成29年度に行った。耕作物の都合で麦作部分は9月に行い、後期に稻作部分を行った。詳細は福崎町文化財調査報告17・21で報告しているので、参照戴きたい。

桜竹之後遺跡だけを略記すると、No.75が該当する。林谷遺跡の確認調査と同じ10月3日に試掘調査を実施し、ピットを4基検出し明瞭な遺構面を確認した。周辺の水田も試掘調査を行ったが床土の下は洪水堆積物で遺構面は確認されなかった。No.75の水田1枚を新たに桜竹之後遺跡として遺跡登録した。

桜遺跡は周知の埋蔵文化財包蔵地で37か所のグリッドを設定したが、総じて遺構面は不安定で明確な遺構面はほとんど検出されなかった。洪水堆積物が多く今回調査した3ヶ所周辺だけで遺構が確認された。確認調査は11月22日から12月25日までの6日間に実施した。



図2 調査地の位置 (1:35000)  
(兵庫県遺跡地図2011.3「前之庄」)



図3 試掘確認調査・本発掘調査位置図

## 調査体制

調査主体 福崎町教育委員会  
教 育 長 高寄十郎  
社会教育課長 大塚久典  
社会教育課副課長 福永知美  
社会教育課主事 樋口 碧  
埋蔵文化財専門員 渡辺 昇  
整 理 作 業 員 梶 智美  
整 理 作 業 員 福永明子



調査風景

## 4. 本発掘調査の経過

### 調査の方法

調査対象地は耕作地で主に水田であるが一部休耕地もあった。試掘確認調査の結果で調査範囲を決め、掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。次年度も耕作を行うことから、埋め戻し作業も行った。

### 調査経過

試掘確認調査の結果、本調査が必要とされた地点について令和2年度と令和3年度に本発掘調査を実施することとなった。両年度とも兵庫県中播磨県民センターと福崎町教育委員会で委託契約を交わした。令和2年度の発掘調査工事は有限会社松浦興業に、ドローン撮影と基準点測量は株式会社ジオテクノ関西に委託した。令和3年度は株式会社マツダ建設に委託した。

令和2年度の調査は令和2年7月1日(水)～令和3年3月11日(木)の間に桜東畠遺跡・桜竹之後遺跡・觀音堂遺跡・長野多イ谷遺跡・桜遺跡の順に行った。他事業の調査で一時中断した期間もある。

桜竹之後遺跡の調査は、令和2年9月1日(火)～令和2年10月27日(火)の間で実働32日間を費やして行った。調査面積は610 m<sup>2</sup>である。ドローンと足場からの全景写真撮影・実測・断割り作業のうち、来季も耕作を行うことから埋め戻し作業も行い調査を終了した。

桜遺跡の調査は、令和3年2月4日(木)～3月11日(木)に実働21日を費やして行った。調査区は2か所あり、北西部を1区、南東部を2区として行った。1区からはじめ2区へ移った。調査面積は1区230 m<sup>2</sup>と2区290 m<sup>2</sup>の合わせて520 m<sup>2</sup>である。ドローン撮影は区ごとに2回を行い、全景写真撮影・実測・断割り作業のうち、来季も耕作を行うことから埋め戻し作業も行い調査を終了した。

桜遺跡3区は平成3年度に実施した。平成2年度に全てを調査することが出来なかつたので繰り越した地区である。発掘調査委託契約を締結して最初に着手した。平成3年6月15日(火)～7月13日(火)の実働10日間を費やして行った。調査面積は520 m<sup>2</sup>である。平成3年度は本体工事が実施されることから埋め戻し作業は行っていない。7月11日の日曜日に桜東畠遺跡と合わせて現地説明会を開催した。

## 調査体制

調査主体 福崎町教育委員会  
教 育 長 高橋 渉  
社会教育課長 松田清彦  
社会教育課副課長 森 公宏  
社会教育課係長 藤原 元  
社会教育課主査 長谷川幸子  
社会教育課主査 樋口 碧  
埋蔵文化財専門員 渡辺 昇  
整 理 作 業 員 梶 智美  
整 理 作 業 員 福永明子  
整 理 作 業 員 原井川奈美  
整 理 作 業 員 常陰ひとみ



調査風景

## 5. 整理作業の経過

試掘調査・本発掘調査と平行して隨時整理作業も実施した。土器洗浄や遺構図の調整などの作業は令和2年度に行ったが、それ以降の作業と報告書刊行は令和3年度に実施した。経費は発掘調査と合わせて兵庫県中播磨県民センターと委託契約を交わして実施した。

桜遺跡3区は現地説明会を開催し地元の方を中心に関構・遺物を

見て頂いた。その際に桜竹之後遺跡の遺構写真も見て頂き、遺物も展示した。令和4年2月から福崎町立神崎郡歴史民俗資料館にて開催される「令和2年度埋蔵文化財発掘速報展」で両遺跡を紹介し、遺物も展示している。



整理作業風景

## 6. 周辺の環境

桜竹之後遺跡は福崎町高岡字竹之後に、桜遺跡は福崎町高岡字岸ノ下・梨ノ木に所在する。福崎町域は市川の両岸に展開しており、市川の支流が流れ開析された谷を形成している。南側には隔絶はないが、他の3方向は地形的に隔絶しており、旧香寺町など旧神崎郡南半を含んだ地域が盆地となっている。両遺跡は市川西岸に位置し、地質構造では低位段丘面に属している。南側の中国自動車道沿いに断層があり、東西方向の交通路となっている。前田遺跡の位置する丘陵北側にも大内川沿いに断層が存在するようである。谷地形は河川によって開析されたもので谷底平野になっており、周辺部は段丘である。谷底平野奥部に矢口遺跡は存在する。

福崎町では旧石器時代からの遺跡・遺物が確認されているが、市川西岸では縄文時代からの遺跡が知られている・高岡地区では桜の林谷遺跡で、石匙などの石器が採集されていたが最近の調査で落とし穴が検出されている。弥生時代の遺跡も市川西側は明確でない。駅前の中溝遺跡で

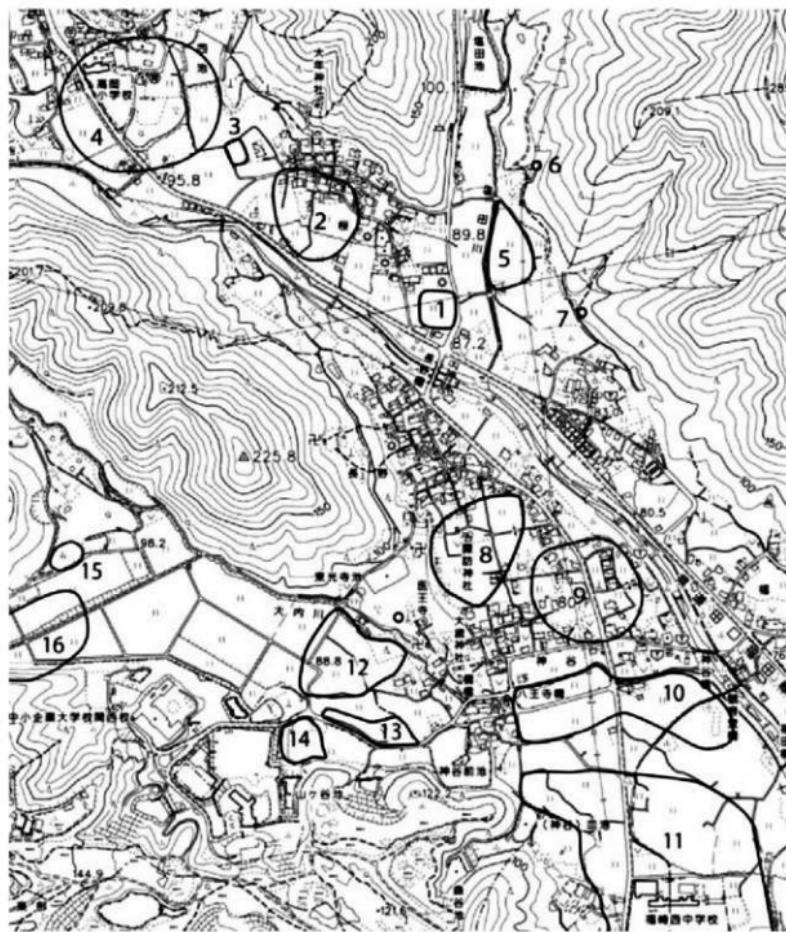


図4 桜竹之後遺跡・桜遺跡の位置と周辺の遺跡

- |          |              |              |
|----------|--------------|--------------|
| 1 桜東畠遺跡  | 2 桜遺跡        | 3 桜竹之後遺跡     |
| 4 林谷遺跡   | 5 狐塚遺跡       | 6 塩田山東2号墳    |
| 7 塩田山東古墳 | 8 長野諏訪神社周辺遺跡 | 9 下々通遺跡      |
| 10 観音堂遺跡 | 11 宮ノ前遺跡     | 12 神谷ヤブノハナ遺跡 |
| 13 前田遺跡  | 14 長野多イ谷遺跡   | 15 雨田遺跡      |
| 16 矢口遺跡  | 17 神谷古墳      |              |

中期の溝が、山崎の朝谷遺跡で後期の土器棺が出土している。終末の土器が宮ノ前遺跡・福田東田黒遺跡・西治下代ノ下モ遺跡や福田町田、馬田スガキで採集されている。西治下代ノ下モ遺跡では古墳時代になると集落を形成する。後期に製塩土器を保有している点も注目される。古墳は福崎町内で確認されているが、古相の古墳は高橋にある。高橋古墳群で早い段階に鉄劍が出土したことでも知られている。箱式石棺を主体部とする6基以上の小円墳で構成される。今のところ福崎で最も古い古墳と考えられている。次の古墳は山崎の大塚古墳である。30m前後の円墳で、長さ12mを超す大型の横穴式石室を主体部としている。土器棺を出土した地点の隣接地に朝谷古墳群が築かれる。大塚古墳に続く時期の大型の石室を保有する1号墳（狐塚）が残存している。神谷古墳も近い時期の古墳であるが高さが低くなり石室長が長くなっている。福田には東大谷古墳・宮山古墳・上垣内古墳・小山古墳の横穴式石室を主体部とする古墳があり、高岡には塩田山東古墳・塩田山東2号墳（桜谷古墳）・五郎ヶ谷古墳が、山崎には馬ウ子古墳群、西治には三昧谷古墳群・数可ノ古墳、高橋には佐本古墳が存在する。奈良時代の遺構は矢口遺跡の堀立柱建物であるが、遺物は宮ノ前遺跡・觀音堂遺跡などで確認されている。中世の遺物も同様で広範に各地で採集されている。



桜遺跡上空から



大塚古墳



長野東光寺墓地石棺

## II 桜竹之後遺跡の調査

### 1. 調査の概要

調査は基本的に1面で行った。ただ、南東部分を中心にして鋤溝の耕作痕を検出した。主に東西方向に鋤溝が見られる。その後、南東部分を掘り下げたところ、耕作痕だけが新しい遺構であることが確認された。南東部分に限って2面で調査を行い、他は1面で調査を行った。上面の遺構は鋤溝だけである。大半の調査は下面であり、検出した遺構は竪穴住居・堀立柱建物などで飛鳥時代から奈良時代の遺構である。遺物は弥生時代から近世までと幅があるが、鋤溝以外は飛鳥時代から奈良時代の遺構と考えている。

基本層序は耕土の下に、にぶい橙極細砂があり、上面に鉄分が堆積している。第2層は床土である。その下が南半は遺構面である地山（黄褐極細砂）になっている。鋤溝を除いて遺構はすべて地山面で検出した。北側から南東部分には床土の下ににぶい黄褐黒褐砂疊層（円礫）が存在する。ある時期の七種川の洪水堆積層である。東側ではこの面でも遺構を検出している。同一遺構面だとすると、この七種川洪水の時期は飛鳥時代以前と思われる。

### 2. 遺構

下面で検出した遺構は、竪穴住居・竪穴遺構・掘立柱建物・柵・溝・土坑・ピットである。遺物は弥生時代後期から近世のものが出土しているが、大半は飛鳥時代の土器である。

竪穴住居（SH01）は調査区中央北寄りで検査している。南北3.7m、東西3.3mの長方形プランである。床面でピットを6基検査している。北辺に接して径0.6mの大形ピットが併設され、その南側に径0.4mのピットが認められる。南側は深さ0.18mと浅めである。壁際の大形ピットは深さ0.4mで上面には円礫が据えられている。竪穴住居コーナー内側に径0.2～0.3mのピットがあり、主柱穴であり上屋構造は4本柱である。東側柱列と東辺の間で広く焼土が認められた。壁溝が巡っているが、南辺中央だけ存在しない。入口であろうか。東側は存在しないのではなく、削平されたものと思われる。壁の残存度は低く、5cm程度で、全体に削平を受けていたのがわかる。

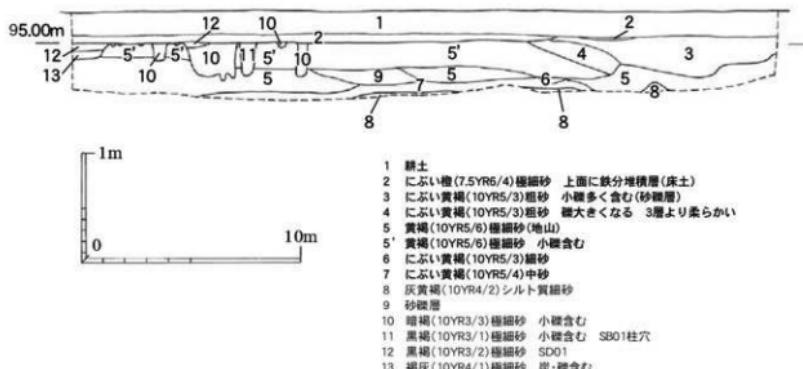


図5 西壁土層断面図

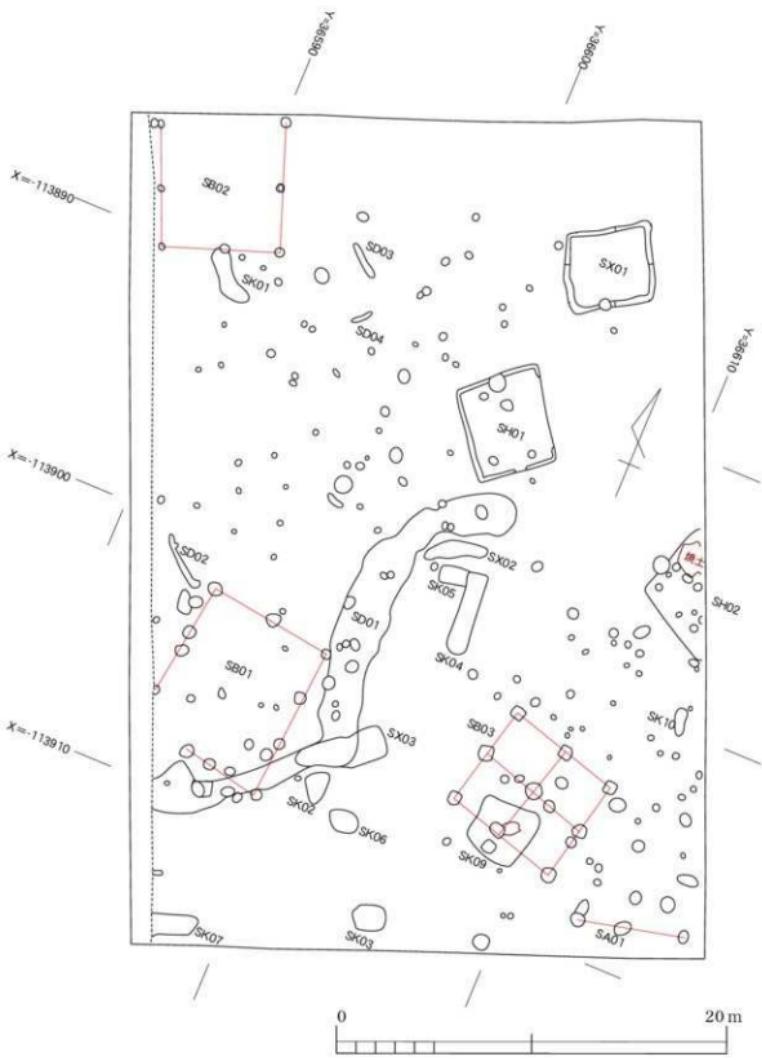


図6 桜竹之後遺跡平面図

SH01

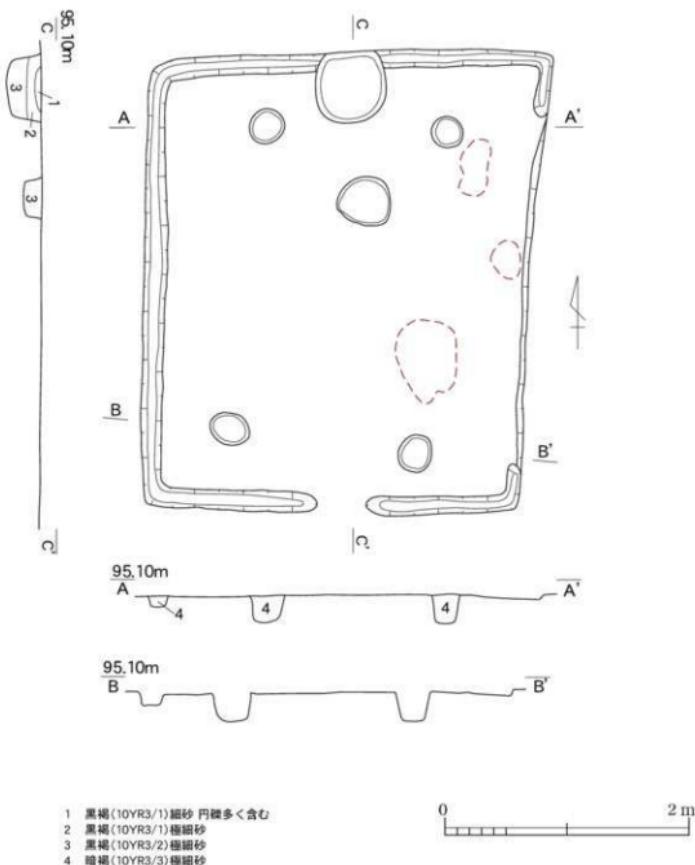


図7 SH01実測図

## SH02

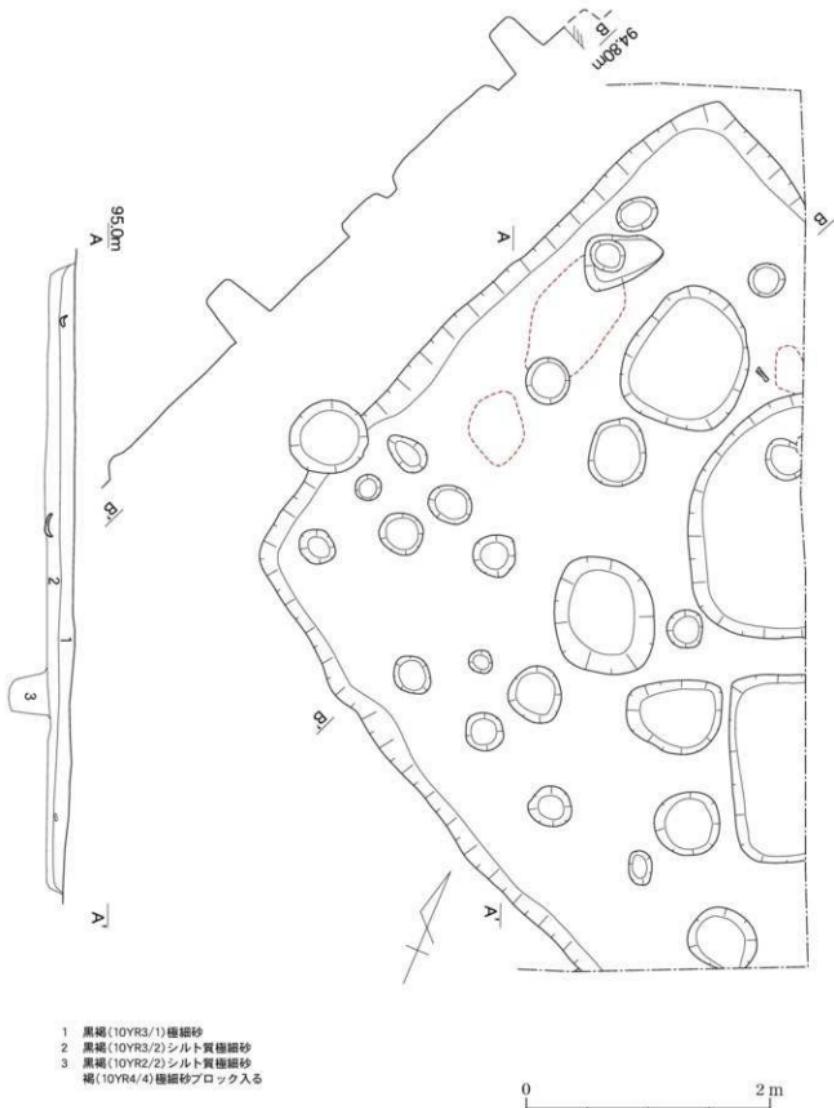


図8 SH02実測図

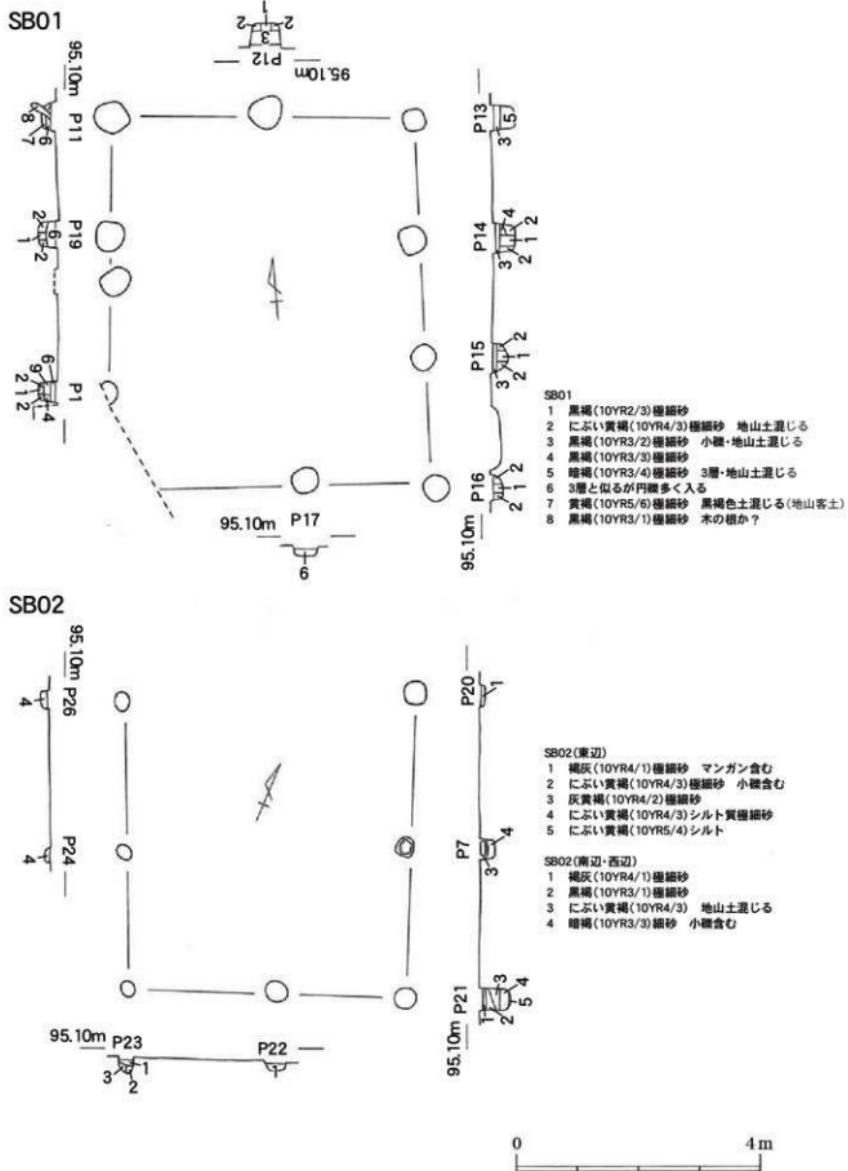


図9 SB01・SB02実測図

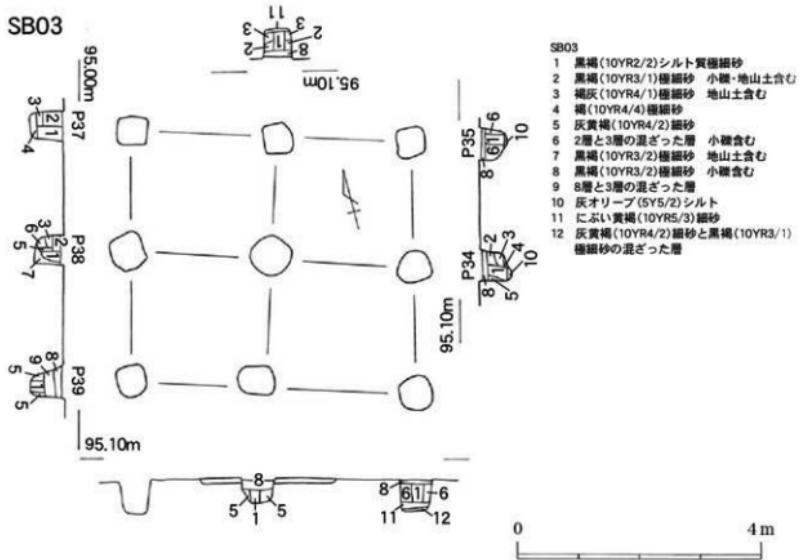


図10 SB03実測図

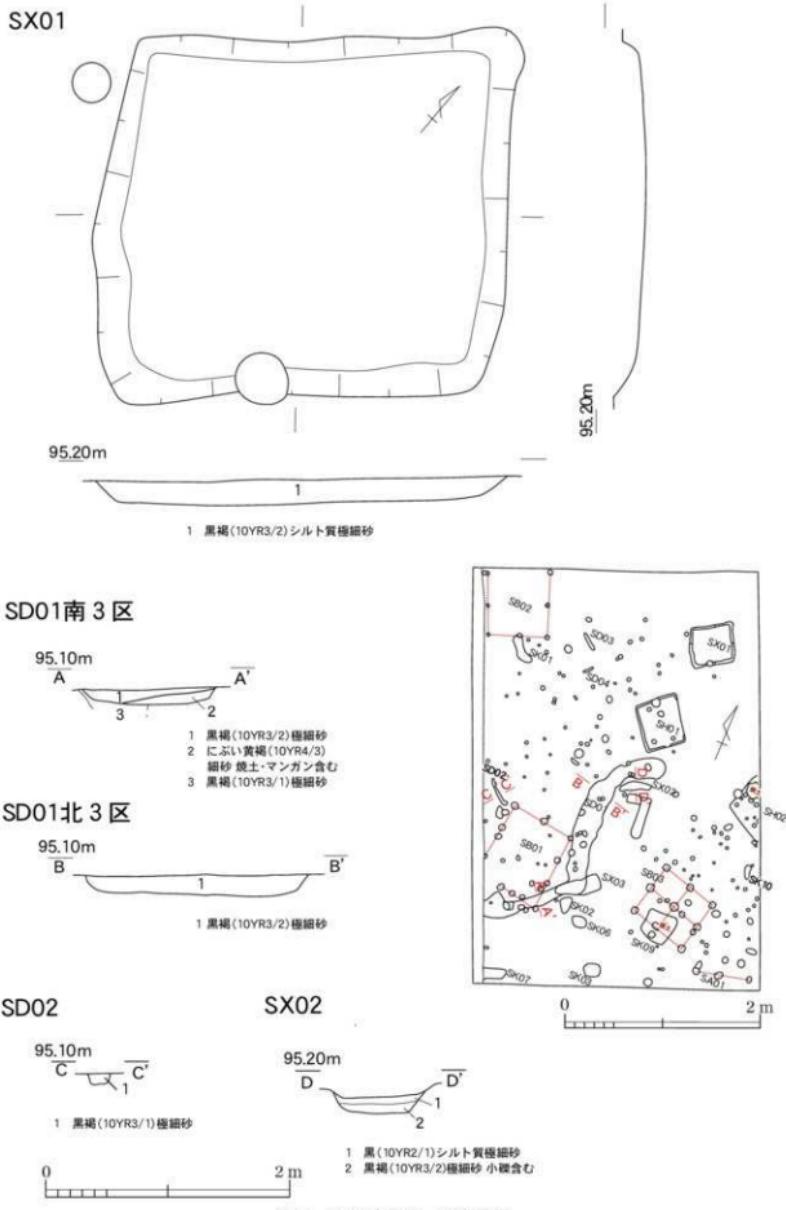
竪穴住居(SH02)は調査区東側で確認した。東壁沿いで確認したので一部拡張したが、全体は調査していない。方形プランの住居で北西辺は5.4mを測る。残存状況は良好でなく、壁高は最大で0.15mである。壁溝は認められない。床面にピット・土坑が多いのが特徴である。後世のピットもあるかもしれないが、土坑6基とピット19基を数える。北側を中心に焼土も見られた。焼土は一部亀甲状になり厚さ0.15mの厚さがある。深いピットの位置から考えると4本柱の構造を考えられる。須恵器・土師器が出土しており、7世紀前半と思われる。

竪穴遺構(SX01)は調査区北東で検出した。南北3.2m、東西3.3mの南西コーナーがやや歪であるが正方形に近いプランである。深さは最大0.15mと浅い。床面が礫層で検出しにくいこともあるが、ピット・壁溝などが確認出来なかったので竪穴遺構としたが竪穴住居の可能性は高い。

掘立柱建物(SB01～03)は3棟確認した。SB01は調査区南西部に位置する南北3間、東西2間の側柱建物である。規模は東西4.8m、南北6.0mである。上面では柱痕を確認出来なかったが、下面では確認出来た。柱が抜き取られた柱穴もあり、柱が切られ埋められたものと思われる。主軸方向はN 2° W ではほぼ北を向く。



調査風景



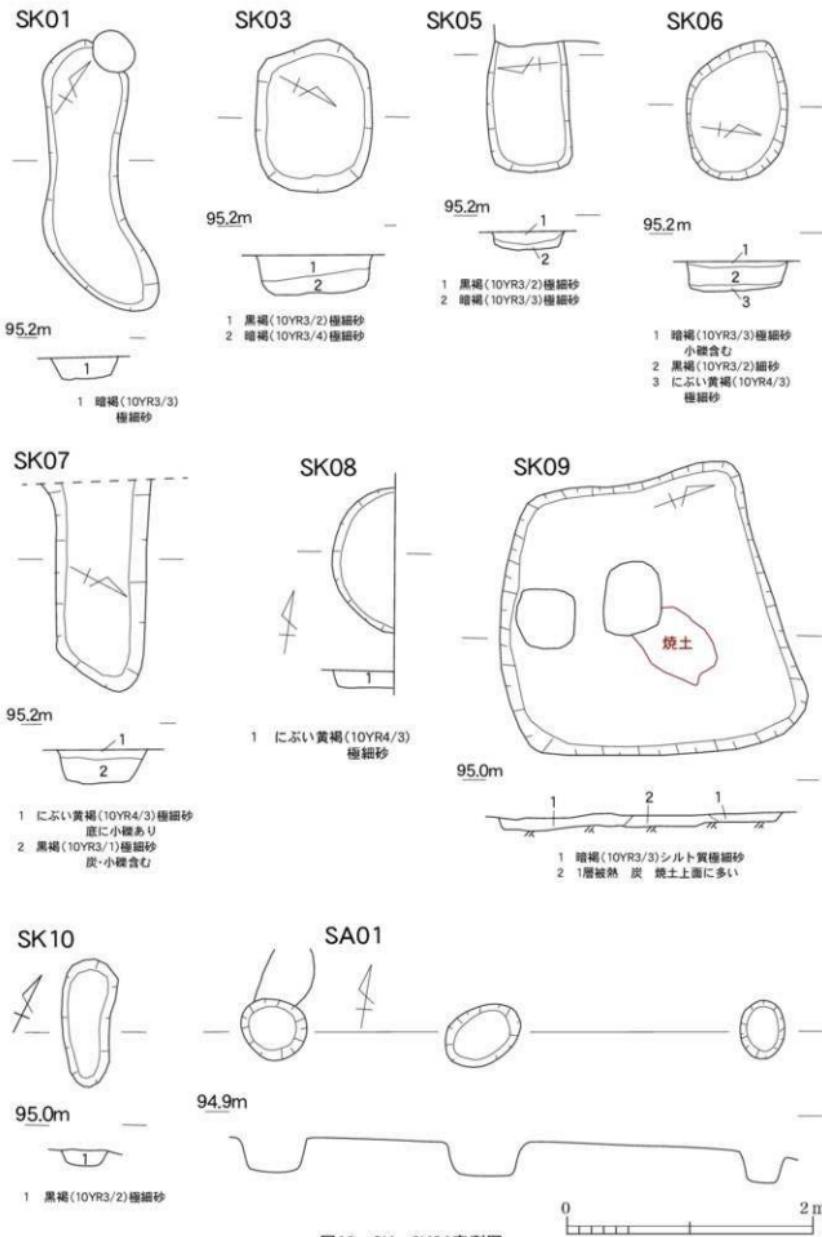


図12 SK・SK01実測図

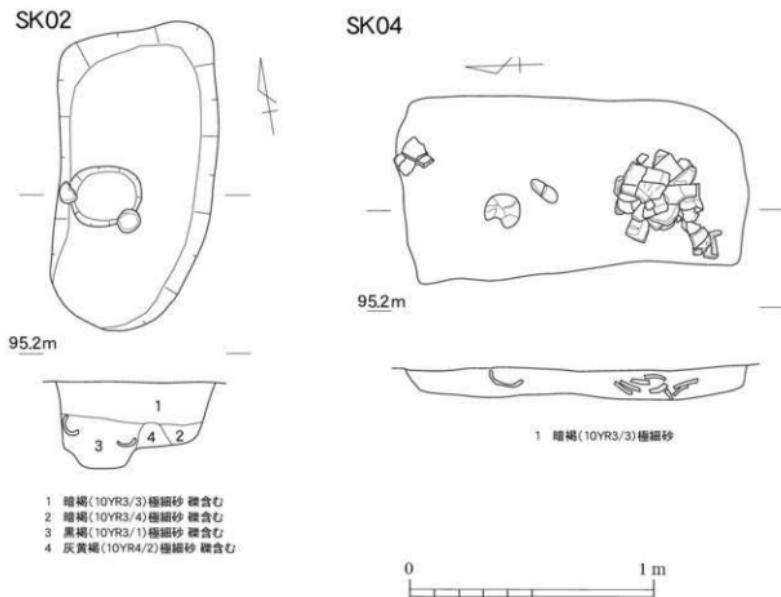


図13 SK02-04実測図

SB02 の主軸方向は N25° W で東西 4.6 m、南北 5.0 m 以上である。主軸方位が異なるので、他の 2 棟とは時期が異なり新しいと思われる。東西 2 間の南北棟側柱建物で北側は調査区外へ延びている。柱穴の径は小さいが、深く掘り下げられており、P 7 のように礎板となる石材を入れていた柱穴もある。

SB03 は 2 × 2 間の総柱建物である。主軸方向は N10° W で東西 4.8 m、南北 4.0 m である。柱穴の規模は大きく北辺は方形である。柱痕も最大 0.3 m と他よりも大きい。総柱であることからも倉庫と考えられる。

柵 (SA01) は調査区南東で検出している 2 間、4.2 m を調査しているが、柱間は同一ではない。北側に建物は復元出来ず柵としたが、南側に延びる堀立柱建物の可能性も残る。主軸方向は N25° W であり、主軸方位から SB02 と同時期かと思われる。

溝 (SD01 ~ 04) は 4 条調査している。SD01 は調査区中央で検出しており、規模が大きく他の溝とは性格が異なる。最大幅 2.2 m、深さ 0.2 m で屈曲しているが長さ 13.0 m を測る。堆積土は黒褐色細砂 1 層である。自然か人工か判断に苦しむ。埋没後にピットが構築されており、堀立柱建物 SB01 などと同時期の飛鳥時代と思われる。溝としての機能した期間は短かったのではと思われる。

SD02 ~ 04 は幅の狭い小規模な溝である。調査区西北部にあり、竪穴住居の壁溝を想定したが明瞭でない。SD03 と SD04 がセットで竪穴住居になる可能性は残るが、断定は出来ない。

### 3. 出土遺物

出土遺物はコンテナ3箱と少ない。須恵器・土師器で、少量の中世遺物も含まれるが大半は飛鳥期のものである。図化した土器は38点である。

#### SH01 出土土器（1）

床面から出土している須恵器杯蓋である。比較的直線的に天井部から端部に延びる。反り部は内湾し端部尖りぎみに丸い。

#### SH02 出土土器（2～22・24～26）

2～9は須恵器、10～22・24・25は土師器である。2は杯身で平底ぎみから段を有して内湾する体部になり受部端部はそのまま上方へ延び丸く納める。立ち上がりは短く外反し端部鋭く仕上げる。3も杯身で器高は低い。平底からタブ外傾し、受部短く端部シャープである。立ち上がりも端部は薄くシャープで短く外反する。底面はヘラ切りから不定方向のナデ仕上げである。4は生焼けの口縁部である。頭部から外傾し屈曲して上方に開き端部丸い。巻口縁部と思われる。5は杯身底部である。未調整の底部で体部は内湾する。6は外反する口縁部で端部尖りぎみである。自然釉がかかっており、長頸壺かと思われる。7は甕口縁部で、やや外反し端面肥厚し内側につまみ出す。端面に浅い沈線見られる。焼成は良好とは言えず色調も白っぽい。8は端部丸く外傾する口縁部で、自然釉多くかかっている。横瓶口縁部であろう。9は高杯筒部で沈線が1条認められる。透孔の有無は明確でない。

10～12は皿である。10・11は器壁の厚い小皿である。ユビ成形しており、指圧痕が残り粗い仕上げである。色調はにぶい赤褐色を呈し砂粒含む。10は2次焼成を受けている。12は大形の皿で磨滅している。粘土紐の継ぎ目が看取され、底部はヘラ成形しているかもしれない。胎土は砂粒を含むが精良である。13は高杯筒部で外反している。2次焼成を受けている。14～18は甕口縁部である。14は頭部やや長く外反し端部反り気味で尖る。頭部の稜線は甘く磨滅している。砂粒多く含む。15は頭部から外傾し端部近くで反っており端部丸い。16は外傾し端部内側に尖らせている。磨滅しているが、面を有していたと思われる。17は外反し端部僅かに内外に肥厚し角張った端部になる。18は大きく外反し端部肥厚している。19は土師器壺底部である。丸底で丁寧な作りではない。ユビ成形とハケ整形ならびにユビ調整の痕跡が残る。器壁は厚い。20は土師器椀口縁部である。薄手で内湾し端部丸い。ロクロナデが顯著に見られ、砂粒含んでいる。21は土師器口縁部である。外傾し端部丸い。内面はユビ成形で、外面は斜め方向のハケ整形である。形状から甕と思われる。22は作り・技法は須恵器甕であるが、土師質を呈している。内面青海波文、外面格子タタキである。破片全てが土師器のように見えるが、須恵器生焼けであろうか。25も同様の当具・タタキの甕破片である。内面当具の幅が広く深くなっていることから別個体である。生焼けではなく土師器に見える。外面のタタキも格子ではなく筋が近接して見える。24は工具原体の模様が明確にし得ない。内面も格子状になっているように思われる。26は土錘である。両端を欠く中央部分dけの管状土錘である。

#### SX03 出土土器（23）

須恵器杯蓋で、器高がやや高く、ロクロケズリが丁寧である体部と天井部の稜線も鋭く、沈線も2条あり古相を示しているように思われる。遺構出土の中で最も古い時期でSX03が古い遺構になる。

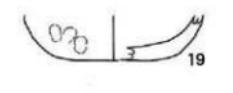
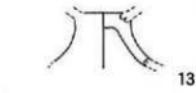
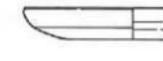
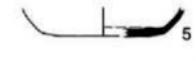
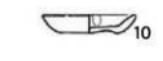
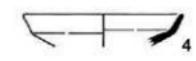
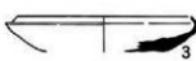
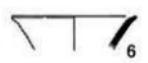
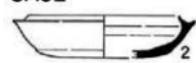
#### SB01 出土土器（27～29）

3点ともP1から出土した須恵器杯である。27は内湾し端部尖りぎみに仕上げる。28は外傾する口縁部で焼成は良好である。自然釉が付着している。29は底部で体部との稜線は甘い。底面はヘラ調整か。

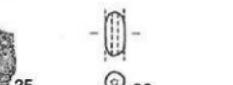
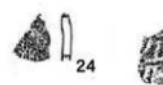
## SH01



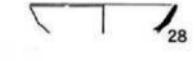
## SH02



## SX03



## SB01



## SK02



図14 出土遺物実測図 (1)

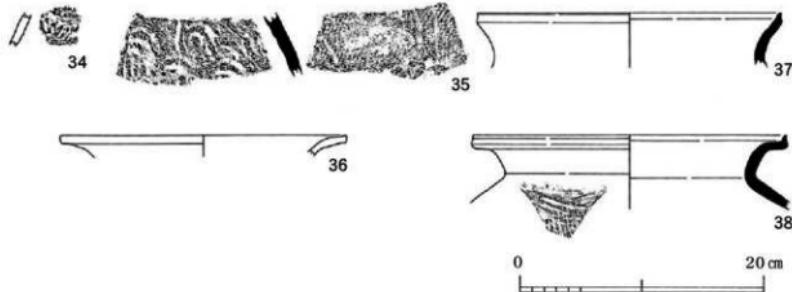


図15 出土遺物実測図（2）

#### SK02出土土器（30・31）

ともに須恵器杯である。30は底部丸く未調整である。体部は内湾し端部丸い。体部はロクロナデで段が出来ている。31は平底で底部やはり未調整である。体部との境は明瞭で、体部は内湾し端部丸い。大きく歪んでおり、平面形は梢円になっている。高温で焼成されており、断面はサンドイッチ状の色調を呈している。

#### SK04出土土器（32・33）

32は土師器皿で、磨滅著しい。丸底だが安定しており、内湾する体部に続き端部尖る。チャートなどの砂粒含んでいる。底面に黒斑がある。33は長胴甕である。胴部での接合点はないが同一個体と思われる。くの字口縁で端部は角張る。端部と頸部の中間が厚くなっている。口縁部はユビ成形のちヨコナデで仕上げている。粘土紐の継ぎ目が見られる。口縁部に黒斑が認められる。体部は内外面ともに凸整形である。底部は丸底であろうと思われ、現状からは下膨れの形状になる。内面はヘラヶケズリ、外面はハケ整形である。煤付着。

#### 包含層出土土器（34～38）

34は磨滅顯著な縄文土器である。中期後半頃の磨消縄文かとも思われるが不明である。35は24に似た格子タタキ、同心円文を有する甕破片である。36は土師器甕口縁部で、37・38は須恵器壺口縁部である。ロクロナデで38は外面にタタキが見られる。37は外反し端部内側につまみ出す。38は外反から水平に延び端部上方につまみ上げる。



現地説明会展示風景

番号	種別	器種	遺構	法量(cm)				調整		備考
				口径	器高	腹径	底径	外	内	
1	須恵器	蓋	SH01 上面	(12.0)	残1.9					
2	須恵器	杯	SH02住居内下層面精査	(15.0)	残3.5		(10.6)			
3	須恵器	杯	SH02 床面	(14.4)	残2.85		(9.6)			
4	須恵器	甕	SH02 P6	(13.0)	残2.6					
5	須恵器	杯	SH02土坑6か?		残2.4		(7.6)			
6	須恵器	壺	SH02	(10.0)	残2.7					内面自然釉付着
7	須恵器	甕	SH02拡張	(12.2)	残3.6					
8	須恵器	横瓶	SH02床面	(6.0)	残4.0					自然釉付着
9	須恵器	高杯	SH02住居内面精査		残2.2					
10	土師器	皿	SH02	(7.4)	2.0	(4.8)		指おさえ	手づくね	
11	土師器	皿	SH02	(7.4)	1.8		4.0		手づくね	
12	土師器	皿	SH02焼土下	(17.6)	残2.55	(11.0)	ヘラケズリ			
13	土師器	高杯	SH02土坑6		残4.5					
14	土師器	甕	SH02	(26.0)	残5.0					
15	土師器	甕	SH02住居内下層面精査	(16.0)	残3.5					
16	土師器	甕	SH02 焼土下	(18.4)	残2.05					
17	土師器	甕	SH02住居内下層面精査	(18.8)	残2.5					
18	土師器	甕	SH02床面	(19.0)	残1.4					
19	土師器	壺	SH02		残3.7	(10.4)	指おさえ		外面一部被熱	
20	土師器	椀	SH02拡張	(16.2)	残3.7		ロクロナデ			
21	土師器	甌	SH02 P6	(24.2)	残4.0		ハケメ			
22	土師器	甕	SH02拡張		残6.55		格子タタキ	青海波文		
23	須恵器	蓋	SX03 NO1	(11.0)	4.2					
24	土師器	甕	SH02住居内下層面精査		残4.0			タタキ		
25	土師器	甕	SH02拡張		残6.0		格子タタキ	同心円文タタキ		
26	土師器	土錘	SH02		残3.6	1.65				
27	須恵器	杯	S801 P11	(14.4)	残2.2					
28	須恵器	杯	S801 P11	(12.0)	残2.3					
29	須恵器	杯	S801 P11		残2.0	(6.0)				
30	須恵器	杯	SK02 底	(10.0)	3.0	(5.0)			歪み	
31	須恵器	杯	SK02 西肩	8.8~11.5	4.1	6.1	ヘラケズリ		口縁歪み激しい	
32	土師器	皿	SK04	13.2	2.7	8.2			被熱	
33	土師器	甕	SK04	(23.0)	残9.3 +9.6		ハケの後ナデ	ヘラケズリ ・ハケ		
34	縄文土器	鉢	面精査		残3.0					
35	須恵器	甕	面精査下層		残5.4		格子タタキ	同心円文タタキ		
36	土師器	甕	面精査下層	(23.4)	残1.8					
37	須恵器	壺	面精査	(24.8)	残4.5					
38	須恵器	壺	面精査	(25.4)	残6.1		タタキ			

表1 出土遺物観察表

### III 桜遺跡調査結果

#### 1. 調査の概要

調査は基本的に1面で行った。一部洪水堆積物の存在するところは上面で遺構検出を行ってから掘り下げた。3区とも上面は耕作痕だけで、それ以外の遺構は検出されなかったので、写真撮影を行ったのち、掘り下げている。基本的に1面で調査を行っている。

1区2区は旧河道など洪水堆積が顕著で、性格のわかる遺構は少なかった。2区北側で柵を検出しており、地形的に北の方が高くなっていることから、遺跡本体は北側の現集落部分に広がっていると思われる。

3区では奈良時代の掘立柱建物4棟を検出した。比較的短期間の集落で、平安時代以降に集落は継続されず、水田となっていた。

#### 2. 遺構

##### 1区

検出した遺構は、落ち込み・ピットと旧河道である。遺物は古墳時代から中世のものが出土しているが、大半は奈良時代の土器である。

層序は第1層耕土、第2層床土、第3層褐極細砂、第4層にぶい黄褐極細砂、第5層暗褐細砂、第6層暗褐中砂、第7層にぶい黄褐シルト質極細砂である。第7層が地山で遺構面である。東側は旧河道の礫層が第5面を切っている。

落ち込み(SX01)は調査区西壁近く中央で確認している。短径1.2m、長径1.8m、深さ0.35mの橢円形の落ち込みである。西側に小さな突出部があり、遺構内には円礫が多く入っていた。人頭大の大きな石材が主体で西側には認められなかった。土師器の小片が出土しているが、時期は明確でない。ピットは8基検出しているが、明確な柱痕跡は認められなかった。調査区中央から南側は複数の旧河道や洪水堆積物が認められる。中央北東から南西には幅2.8mの旧河道が確認される。

出土遺物は少ない。須恵器・土師器で、少量の中世遺物も含まれるが大半は奈良時代のものである。製塙土器が多いのが特徴である。

##### 2区

検出した遺構は、柵・溝・落ち込み・ピットと旧河道である。遺物は古墳時代から中世のものが出土しているが、大半は奈良時代の土器である。

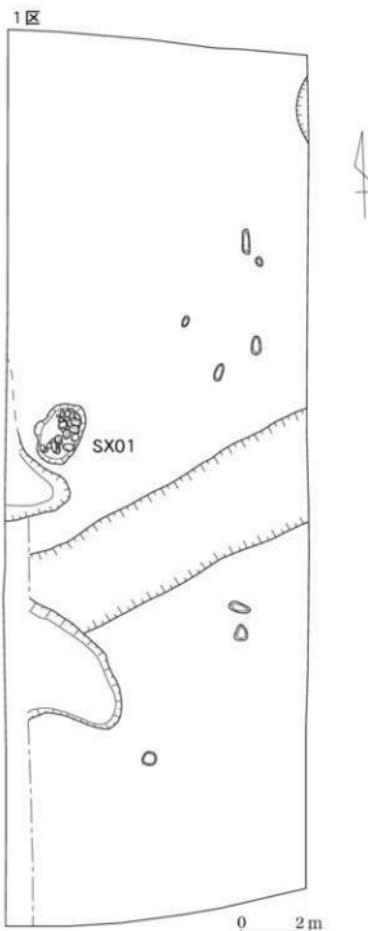


図16 1区平面図

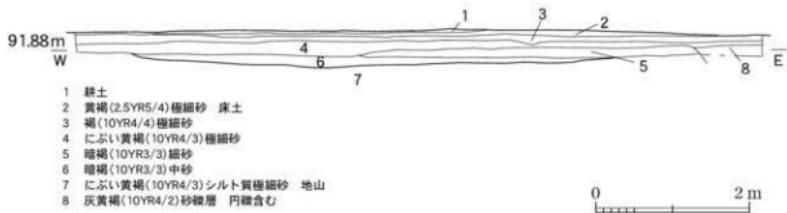


図17 1区土層断面図

やはり製塩土器が多い。

層序は第1層耕土、第2層床土、第3層暗褐中砂、第4層灰黃褐細砂、第5層黒褐細砂、第6層褐極細砂である。第6層が地山で造構面である。第3層、第4層、第5層、第6層各面に洪水痕跡が認められる。

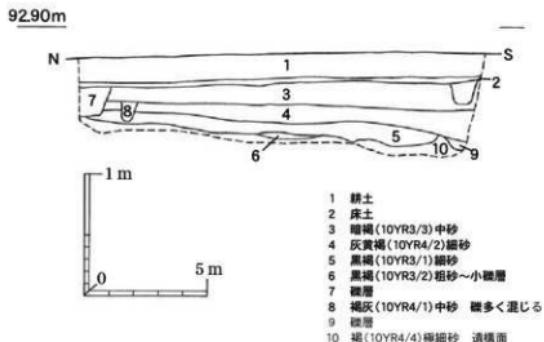


図18 2区土層断面図



調査風景

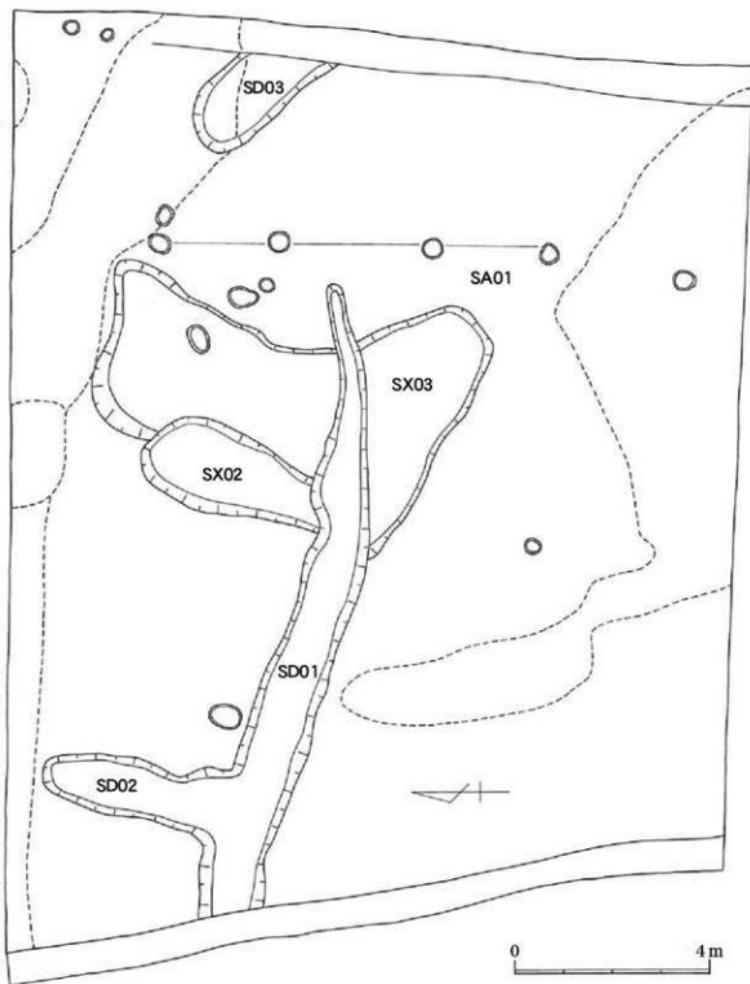


图19 2区平面图

### SA01



### SD01

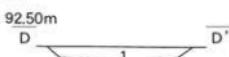


1 暗褐(10YR3/3)極細砂



1 灰黄褐(10YR4/2)中砂 小砾含む  
2 黒褐(10YR3/2)極細砂  
3 にぶい黄褐(10YR4/3)極細砂

### SD02



1 にぶい黄褐(10YR4/3)シルト質極細砂

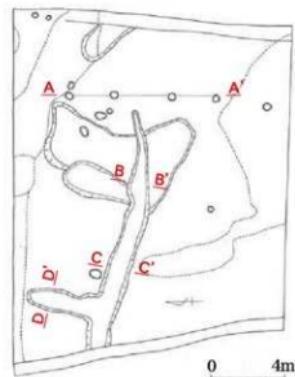


図20 2区遺構実測図

柵 (SA01) は調査区中央東側にあり、南北方向に延びている。主軸はN8°Eでやや東に振っている。3間、8.0 mを測る。柱間は北から 2.6、3.2、2.2 mである。溝は3本確認している。SD01は東西方向に流れ、SA01手前で終息している。調査区中央北側に位置しており、西から東に流れている。西側が広く東側が狭くなっている。最大幅 1.4 m、深さ 0.25 mを測る。落ち込みを切っており、検出遺構の中では新しい遺構である。SD02は北西で検出した溝でSD01に切られている。最大幅 1.2 m、深さ 0.15 mの南北に延びる溝である。SD03は調査区北東にあり、旧河道に沿っている。最大幅 0.14 mである。落ち込みは2基あり中央で検出し切り合い関係にあり、共にSD01に切られている。



SA01 (北から)

### 3区

検出した遺構は、掘立柱建物・ピットと水田畔である。遺構ではないが旧河道も確認している。遺物は古墳時代から中世のものが出土しているが、大半は奈良時代の土器である。

層序は第1層耕土、第2層にぶい黄褐色細砂（床土）、第3層にぶい黄褐色細砂、第4層灰黄褐色細砂、第4層上面が遺構面である。旧河道が調査区内に複数存在し、疊層が盛り上がっている部分や逆に堆積層を削平している部分もある。洪水堆積層が厚くあり、明確な地山は検出していない。

掘立柱建物（SB）は4棟検出した。SB01は調査区南東に位置している。主軸方向はN18°Wの2間×3間以上の南北棟の側柱建物である。棟行4.6mで、検出した桁行は2間分4.4mで調査区南側へ延びている。柱穴は最も大きなもので長径1.1mを測る大形のものである。柱は抜かれたか切られたものと思われ、柱穴底部にだけ柱痕跡が認められた。径0.25～0.3mを測る。深さは最も深い柱穴で0.65mあり、北東の柱穴には礎石状に板石を敷いていた。同一埋土で埋められていることから、意図的に埋められたものと思われる。小片であるが、須恵器・土師器・製塩土器は柱穴から出土している。

SB02はSB01の北西側にあり、N30°Wと主軸方向が異なっており、西に振っている。2間×3間の南北棟でやはり側柱建物で、棟行は4.0m、桁行は4.8mである。柱痕跡は径0.2mとSB01より柱が細くなっている。SB01同様上部は埋められている。

SB03はSB02の西側に位置し、主軸方向は同じN30°Wで合わせているが、南北方向の辺は合わせていない。2間×2間の総柱建物である。やはり、柱は抜くか切られており、検出面で柱痕跡を確認した柱穴はない。埋土はSB01・02とほぼ同じである。柱痕跡は径0.2～0.25mで、最も深い柱穴は南西部で0.6mを測る。中央にのみ礎石が敷かれていた。南北3.4m、東西4.4mを測る。

SB04は調査区中央西よりで確認した2間×3間の南北棟である。主軸方向はSB01と同じN18°Wの側柱建物である。棟行4.2m、桁行7.0m（2.3・2.4・2.3m）を測る。検出面では柱痕跡は確認されておらず、底近くで確認している。西辺・北辺では柱痕跡を確認出来なかった。柱痕跡の径は0.2mである。複数の柱穴から石材が検出されているが、根石でなく柱を安定させるために側に入れられた詰石である。北東柱穴が最も深く0.6mを測る。平面形は隅円方形から円形で最大径は0.9mである。西側に旧河道があり、SB04空間に後に畔が設けられ水田化している。

他に検出した遺構は水田畔と旧河道である。水田畔は調査区中央に弧状に検出した。断割り調査をして溝でなく畔であると確認した。地形に即して設けており、建物廃絶後に水田化した時の畔

畔であるが、時期は不明である。旧河道は調査区西側に北西から南東方向に流れている。また北壁でも疊層が認められ、昨年度調査した2区からの旧河道の一帯と思われる。

出土遺物は少ない。須恵器・土師器で、少量の中世遺物も含まれるが大半は奈良時代のものである。製塩土器が多いのが特徴である。



現地説明会風景

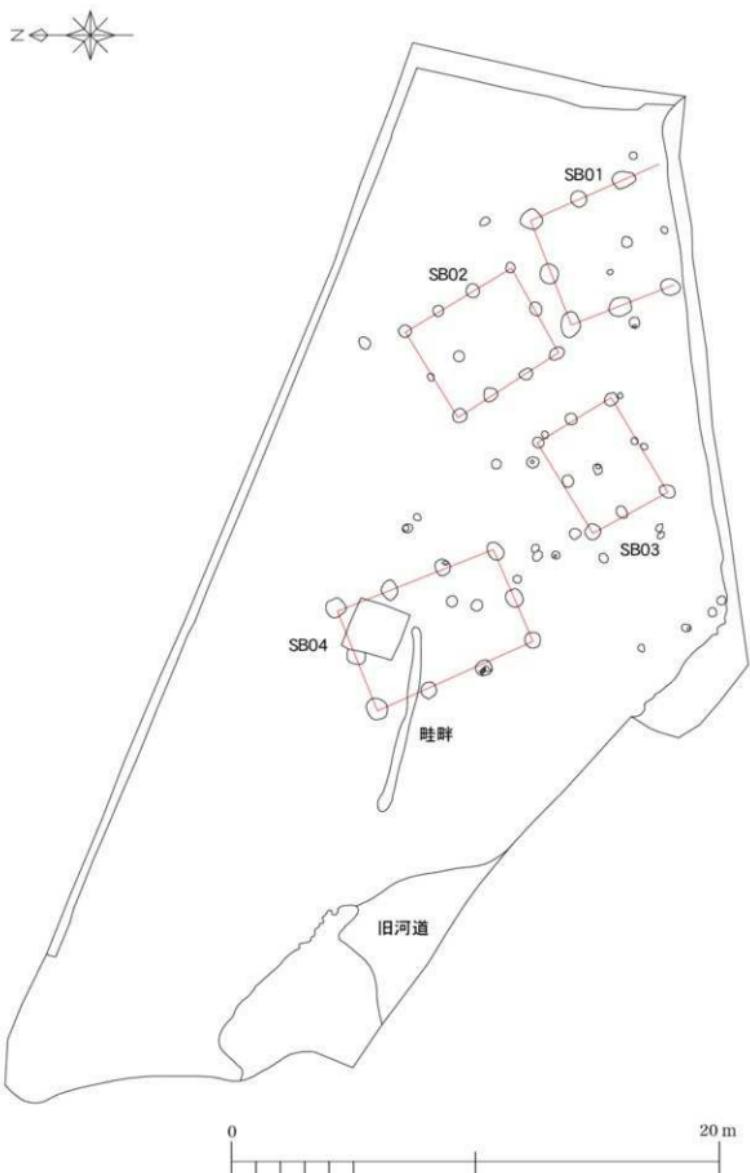


図21 3区平面図

92.10m

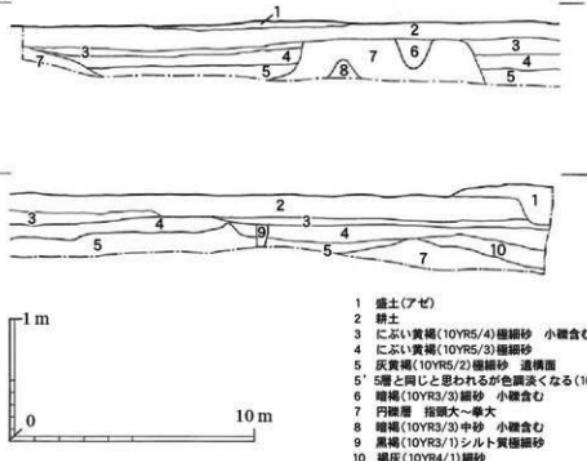


図22 3区土層断面図

### 小結

奈良時代の集落跡を確認した。洪水痕跡が多く複数の堆積物が確認された。短期間営まれた集落と思われる。遺物は中世以降もあるが、中世以降の明瞭な遺構は柵・水田畦畔などで主に水田（生産域）として利用されていたと思われる。奈良時代の建物は、主軸方向から2時期の建物と思われる。1棟だけ柱建物で他は側柱建物である。北東方向にも旧河道が存在するので、幅30m前後の狭い微高地に短期間の建物が築かれたと思われる。全て方形掘り方の柱穴ではないが、整然と構築された奈良時代の大形建物群である。出土遺物は少ないが製塙土器が多いのが特徴である。

### 3. 遺物

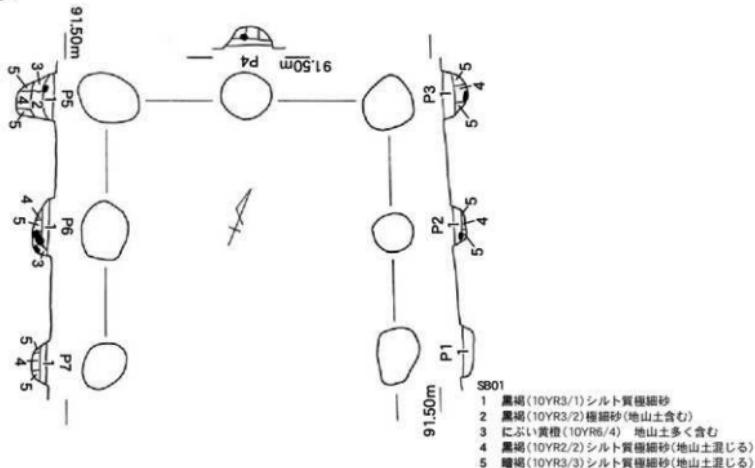
出土遺物は3区合わせてコンテナ3箱と少ない。1区出土が1・2で、2区出土が3~11で、3区出土が12~18である。

1はSX01出土の磁器である。水鉢の口縁部で波状口縁である。緩やかなくの字を呈し、頭部に沈線を有し体部には花弁を施す。2は陶器底部で糸切り底である。内面には茶褐色の釉薬を塗る。内面中央に円柱状のものが付くので平仄などであろうか。

3~5はSX03出土の製塙土器である。手捏ねで厚手である。ユビ成形痕が顕著に見られる。端部の形状は4だけ尖りぎみだが、他は丸い。

6~11は面精查や包含層出土である。6は須恵器壺肩部である。肩部は平坦で頭部から口縁部は直立ぎみに延びると思われる。肩部は甘い稜線を持って体部に続く。7・8は須恵器杯口縁部である。7は外傾し端部丸い。内面はロクロナデで段になっている。重ね焼きの痕跡がある。8は僅かに外反し端部丸く納める。9は土師器壺である。内傾する体部から鋭角にくの字に外反し端部上方に尖らす。端面に浅い沈線がある。頭部内面に粘土紐の継ぎ目が明瞭に残る。端部内面は強いヨコナデで凹んでいる。胎土に砂粒多く含み磨滅している。10は壺の把手部で幅広で厚みがある。平面形状は弧状である。

SB01



SB02

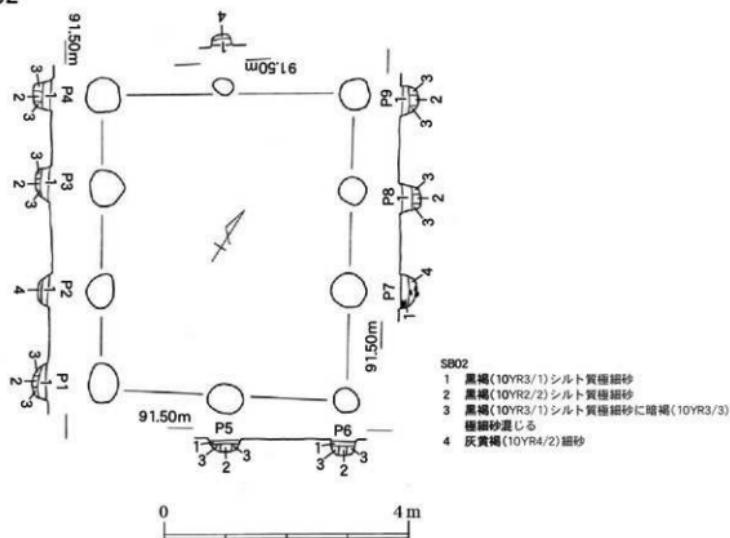
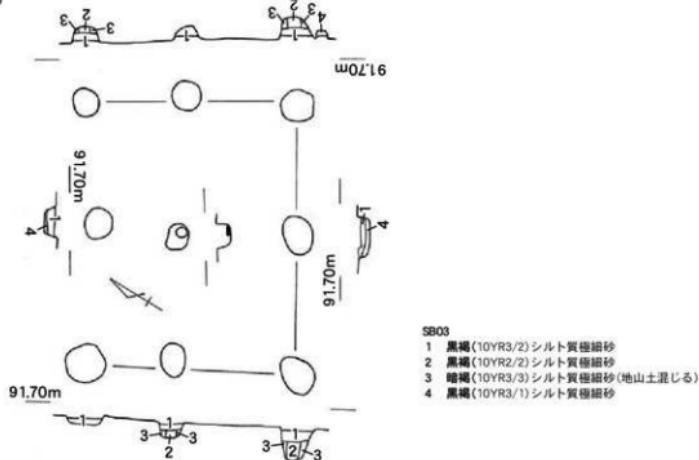


図23 3区造構実測図(1) (SB01・SB02)

SB03



SB04

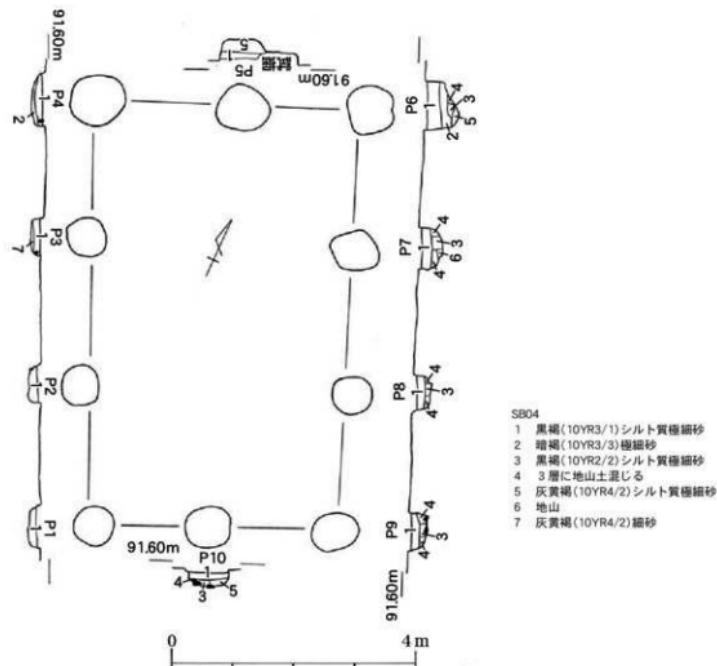


図24 3区造構実測図(2) (SB03・SB04)

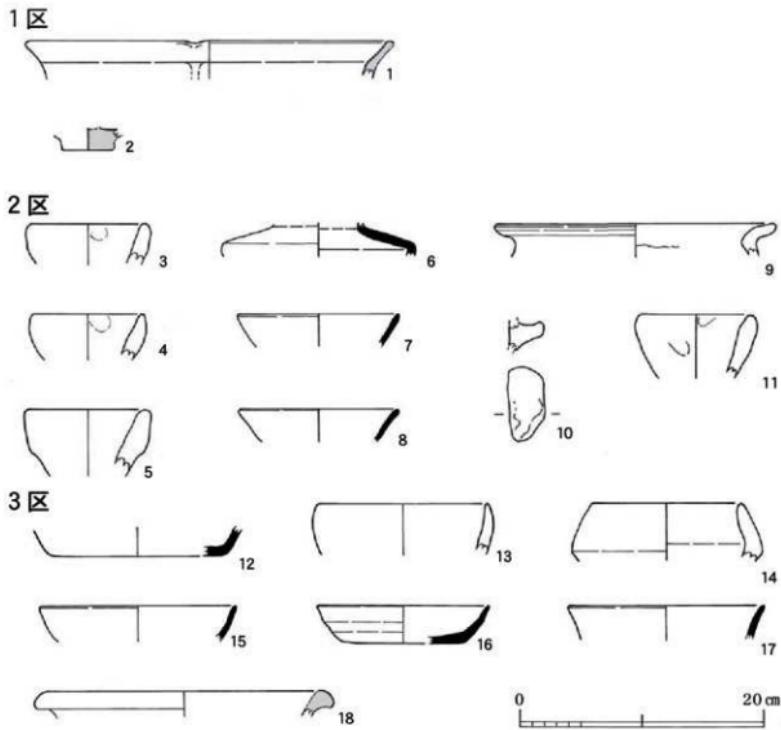


図25 出土遺物実測図

描き半月の短い形である端部角張り僅かに外湾する。11は製塩土器である。厚みがあり径は小さめである。外傾し端部丸く、端部下が厚くなっている。手捏ねで仕上げる。

12はSB01P6出土の須恵器杯底部である。杯Aで生焼け内面赤くなっている、平底から内湾気味に延びる体部になる。底面はヘラ切りかと思われるが磨滅している。

13はSB02P7出土の製塩土器である。ユビ成形で端部尖りぎみに丸く納める。端部より下部が厚くなっている。胎土に長石などの砂粒多く含んでいる。接合しないが同一個体の破片も出土している。

14はSB03P9出土の製塩土器である。体部屈曲点から端部に向かって薄くなり、端部太がる。磨滅していることから確実ではないが、他の土器よりユビ形痕を消しており、平滑である。チャートなどの砂粒が多く含む。

15はSB04P5出土の須恵器杯である。内湾する体部から丸く納める口縁部に続く。ロクロナデで内面には自然軸がかかっている。

16はP22出土の須恵器杯Aである。平底から内湾する体部になり、口縁端部丸く薄くなっている。体部は強いロクロナデで外面は凹凸が顕著である。底面未調整。

17・18は精査時に出土した土器で、17は遺構面直上で出土した須恵器杯口縁部である。外反し端部丸い。15同様内面に自然軸がかかっている。18は瓦器壺口縁部である。短い頭部で端部丸い。

番号	種別	器種	遺構	法量(cm)				調整		備考
				口径	器高	腹径	底径	外	内	
1	青磁	水鉢	1区 SX01	(29.6)	残3.1					
2	陶器	灯明皿	1区 碗層		残1.8		4.0			
3	土師器	製塩土器	2区 SX03	(9.0)	残3.4			ユビ成形	ユビ成形	
4	土師器	製塩土器	2区 SX03	(8.8)	残3.8			ユビ成形	ユビ成形	
5	土師器	製塩土器	2区 SX03	(9.6)	残5.5			ユビ成形	ユビ成形	
6	須恵器	壺	2区		残2.8			ヘラケズリ	ロクロナデ	
7	須恵器	杯	2区	(13.2)	残2.7			ロクロナデ	ロクロナデ	
8	須恵器	杯	2区 黒褐砂	(12.8)	残2.7			ロクロナデ	ロクロナデ	
9	土師器	甕	2区 黒細砂	(22.6)	残2.7					
10	土師器	把手	2区 黒細砂		残2.3					
11	土師器	製塩土器	2区 黒褐砂	(9.0)	残5.3			ユビ成形	ユビ成形	
12	須恵器	杯	3区 SB01 P6		残2.4	(14.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	
13	土師器	製塩土器	3区 SB02 P7	(13.8)	残4.2					
14	土師器	製塩土器	3区 SB03 P9	(12.0)	残4.7					
15	須恵器	杯	3区 SB04 P5	(16.0)	残2.9			ロクロナデ	ロクロナデ	
16	須恵器	杯	3区 P22	(14.0)	残3.1	(10.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	
17	須恵器	杯	3区 P4上面	(16.0)	残2.8			ロクロナデ	ロクロナデ	
18	瓦器	壺	3区 面精査	(22.6)	残2.1			ロクロナデ	ロクロナデ	

表2 桜遺跡出土土器観察表



発掘調査速報展展示風景

## IV おわりに

桜竹之後遺跡・桜遺跡の調査は小面積ながら比較的大きな成果を上げることが出来た。桜竹之後遺跡は飛鳥時代の、桜遺跡は奈良時代の集落跡であることが判明した。両遺跡とも遺跡周辺は七種川などの氾濫に遭い、旧河道や洪水堆積物が多く見られる。洪水に遭いながら微高地上に各々短期間の集落を営んでいたようである。桜竹之後遺跡から桜遺跡へ移動している。

桜竹之後遺跡では、竪穴住居・掘立柱建物・落ち込み・柵・土坑・溝などを調査した。竪穴住居は2棟あり飛鳥前半期で、SH01は通常だがSH02は15cm以上の焼土層があるなど特殊である。土坑が6基床面全体に広がり一部が強く被熱していることから工房跡と考えられる。焼土坑は亀甲状になっている。SX01とした方形落ち込みも住居の可能性が高い。掘立柱建物は3棟あり主軸方向が異なるで、大きな差ではないと思われるが少なからず時期差がある。主軸方向が南北に近いSB01とSB03は同時期の可能性が高い。SB01は側柱建物、SB03は総柱建物である。柱穴規模が大きく、特にSB03は1mを越える規模の大きな柱穴である。SB02は柱穴の径は小さいが、礎板を有する柱穴や深い柱穴で立派な建物である。時期の前後関係は明確に言えない。

桜遺跡は4棟の掘立柱建物を調査した。主軸方向から2つに分けられる。SB01とSB04がN18°Wで、SB02とSB03がN30°Wの2群である。一般的には南北に近い主軸を古く考えがちであるが、切り合い関係がなく、また埋土や出土遺物からも前後関係は明確ではない。どちらにしても大きな時期差はないものと思われる。SB03だけが総柱建物で他は2×3間の側柱建物である。SB01柱穴の最大長は1.1mを測る大形建物である。短期間に築かれた大形建物2棟から成る小集落である。

桜竹之後遺跡から桜遺跡へ移動したことは明らかである。桜遺跡だけでなく、奈良時代には周辺の遺跡にも遺跡が増加している。林谷遺跡・桜東畠遺跡にも集落を移動拡張している。桜竹之後遺跡と周辺遺跡との出土遺物の違いは製塙土器であろう。桜竹之後遺跡だけが時期が違うことからか、それとも奈良時代になって製塙土器を保有することによって桜から高岡一帯に大きく遺跡を拡大させたのではないかと思われる。

## 報告書抄録

ふりがな	さくらたけのごいせき・さくらいせき
書名	桜竹之後遺跡・桜遺跡
副書名	高岡・福田地区は場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	福崎町埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	24
編著者名	渡辺昇
編集機関	福崎町教育委員会
所在地	〒679-2280 兵庫県神崎郡福崎町南田原3116-1 TEL 0790-22-0560
発行年月日	2022年3月20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯度分秒	東経度分秒	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	要因
		市町村	遺跡番号					
さくらたけの ごいせき 桜竹之後遺跡 試掘調査 1次	おうごけんかんざいぐんふくさきちょう 兵庫県 神崎郡福崎町 たかおかあざきの ご 高岡竹岸之後	28443	410146	34度 97分 26秒	134度 73分 42秒	2017.10.3 2020.9.1 ～10.27	4m <sup>2</sup> 610m <sup>2</sup>	ほ場整備
さくらの いせき 桜遺跡 確認調査 1次 2次	おうごけんかんざいぐんふくさきちょう 兵庫県 神崎郡福崎町 たかおかあざきの もと なしの さ 高岡岸ノ元、梨ノ木	28443	410146	34度 97分 15秒	134度 73分 6秒	2017.11.22 ～12.25 2021.2.4 ～3.11 2021.6.15 ～7.13	64m <sup>2</sup> 520m <sup>2</sup> 520m <sup>2</sup>	ほ場整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
さくらたけの ごいせき 桜竹之後遺跡	集落跡	飛鳥	竪穴建物 掘立柱建物 槽・溝	須恵器・土師器	
さくらの いせき 桜遺跡	集落跡	奈良	掘立柱建物 溝	須恵器・土師器 製塙土器	

# 写 真 図 版



## 桜竹之後遺跡



北西上空から



南上空から



南西上空から



東上空から



西上空から



桜竹之後遺跡（南上空から）



桜竹之後遺跡（西上空から）

## 桜竹之後遺跡



調査前（南から）



調査前（北から）



機械掘削



南端鋤溝（東から）



牛足跡（西から）



調査風景





SH01 (東から)



SH01 検出状況 (東から)



SH01 (南から)



SH01 西壁溝 (南から)



SH01 北壁溝 (西から)

## 桜竹之後遺跡



SH01 土坑断面（東から）



SH01 調査風景



SH01 焼土（東から）



SH01 焼土（東から）



SH02（南西から）



SH02（南西から）



SH02 調査風景



SH02 焼土面（西から）



SH02 焼土面 炭化材検出状況



## 桜竹之後遺跡



SH02 焼土面土器出土状況



焼土面 土器出土状況



調査風景



SH02 内土坑 6 断面（西から）



SH02 土坑 6 土器出土状態（西から）



SH02 焼土面



SB01 (北から)



SB01 (南から)



SB01P1 断割り (西から)



SB01P12 断割り (北から)



SB01P13 断割り (東から)



SB01P14 断割り (東から)

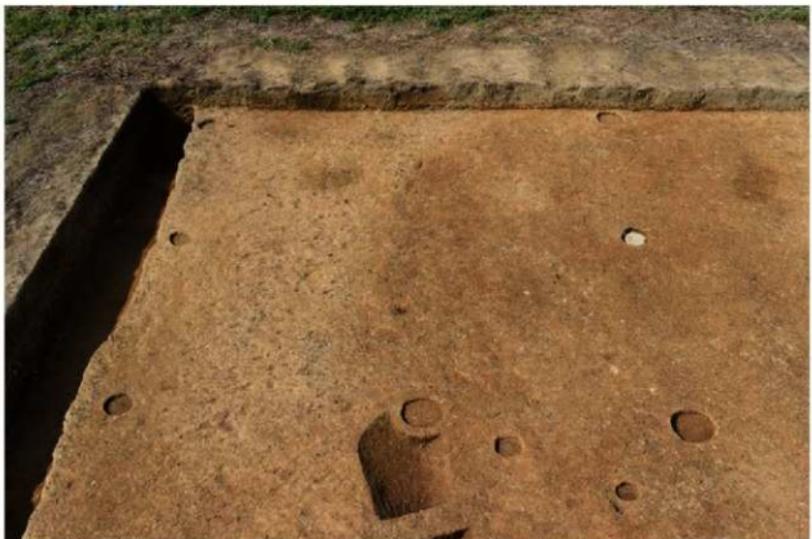


SB01P15 断割り (東から)



SB01P16 断割り (東から)

## 桜竹之後遺跡



SB02 (南から)



SB02 (南から)



SB02P7 (東から)



SB02P21 断割り (東から)



SB02P7 断割り (東から)



SD01 北アゼ（南から）



SD01 南アゼ（西から）



SD01 調査風景



SD01（南西から）



SD02 アゼ（南から）



SD03 アゼ（南から）



## 桜竹之後遺跡



SD03 (南から)



SD03・04 (南から)



SK01 アゼ (南から)



SK01 (南から)



シート養生



SK02 断面 (南から)



SK02 断面 (南から)



SK02 (南から)



SK02 調査風景



SK03 断面 (東から)



SK03 (東から)



SK04 (西から)



SK04 (西から)



SK04 土器出土状態 (西から)



## 桜竹之後遺跡



SK04・05（南から）



SK04 調査風景



SK05 断面（西から）



SK05（東から）



SK06 断面（東から）



SK06（南から）



SK07 断面（東から）



SK07（南から）



SX01 検出状況（南から）



SX01 アゼ（北から）



SX01（南から）



SX01（西から）



SX02 断面（東から）



SX02（東から）



ドローン撮影風景



## 桜竹之後遺跡



全景（北から）



全景（南から）



垂直写真



南東部下層全景（北から）



SB03（北から）

桜竹之後遺跡

図版17



SB03P28 断割り（西から）



SB03P33 断割り（西から）



SB03P34 断割り（西から）



SB03P36 断割り（西から）



SB03P37 底（西から）



SB03P38 断割り（西から）



SK10 断面（南から）



SA01（西から）







1区調査前（北から）



機械掘削



北壁



北壁（部分）



西壁



人力掘削



調査風景



東壁

## 桜遺跡 1区



全景（北から）



全景（南から）



SX01（西から）



SX01（北から）



SX01（西から）



調査風景



調査風景



調査風景



南上空から



西上空から



南東上空から



東上空から



垂直写真



埋戻し



埋戻し



埋戻し終了（南から）

## 桜遺跡 2区



調査前（北から）



調査前（南東から）



機械掘削



人力掘削



SD01 東アゼ（東から）



SD01 調査風景



SD01 西アゼ（東から）



SD01 西半（東から）



SD02（南から）



調査風景



東壁



東壁



SA01（南から）



SA01P2 断割り（東から）



SD01（東から）



SD01（西から）

## 桜遺跡 2区



SD02 (西から)



SD02 (南から)



全景 (北から)



全景 (南から)



全景 (東から)



全景 (西から)



シート養生



ドローン撮影風景



垂直写真



桜遺跡 2区から東側



桜遺跡 2区から東側



埋戻し



埋戻し



埋戻し



埋戻後（北から）

## 桜遺跡 2区



北西上空から



垂直写真



調査前（西から）



調査準備（草刈り）



機械掘削



調査風景



北壁東半



調査風景



測量調査風景

現地説明会



全景（南東上空から）



全景（東から）



全景（南から）



全景（北から）



全景（西から）



全景（西上空から）



全景（東上空から）



垂直写真

## 桜遺跡 3区



SB01 垂直写真



SB01・02 (北から)



SB01・02 (南から)



SB01 (北から)



SB01 (南から)



SB01P1 焼土



SB01P2 断割り (東から)



SB01P3 断割り (東から)



SB01P4 断割り（西から）



SB01P5 断割り（西から）



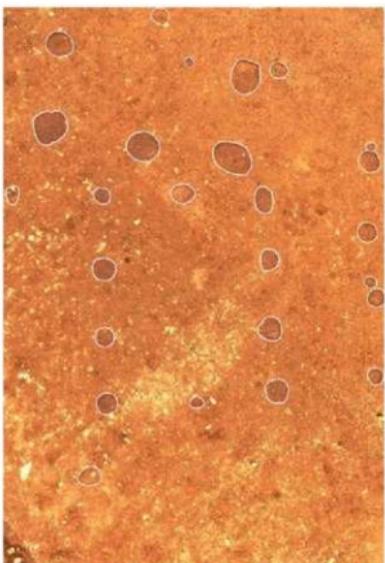
SB01P6 断割り（西から）



SB01P7 断割り（西から）



SB02（南から）



SB02 垂直写真



SB02（北から）

## 桜遺跡 3区



SB02P1 断割り（西から）



SB02P2 断割り（西から）



SB02P3 断割り（西から）



SB02P4 断割り（西から）



SB02P5 断割り（東から）



SB02P6 断割り（東から）



SB02P7 断割り（東から）



SB02P8 断割り（東から）



SB02P9 断割り（東から）



SB02P10 断割り（北から）



SB03（南から）



SB03（東から）



SB03 垂直写真

## 桜遺跡 3区



SB03P1 断割り（西から）



SB03P2 断割り（北から）



SB03P3 断割り（東から）



SB03P4 断割り（南から）



SB03P5（南から）



SB03P6 断割り（東から）



SB03P7 断割り（西から）



SB03P8 断割り（南から）



SB03P9 断割り（東から）



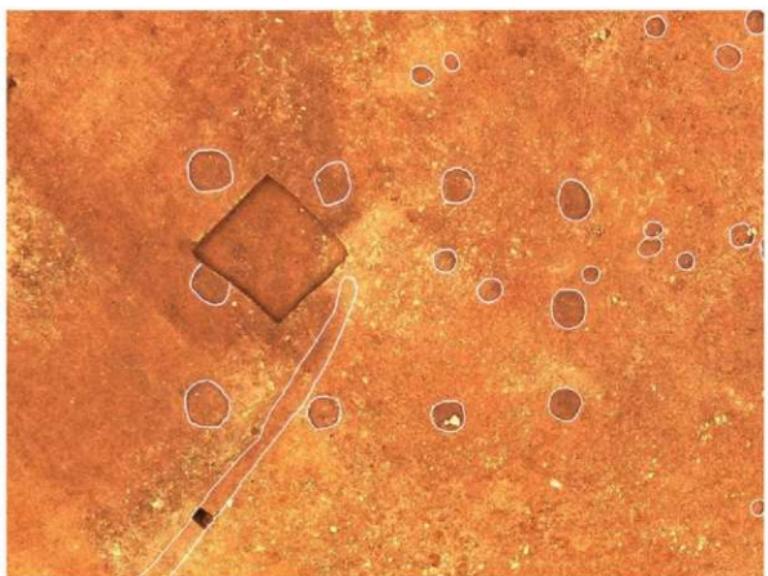
SB03 調査風景



SB04（東から）



SB04（北から）



SB04 垂直写真

## 桜遺跡 3区



SB04P1 断割り (西から)



SB04P3 断割り (西から)



SB04P2 (東から)



SB04P4 断割り (西から)



SB04P2 断割り (西から)



SB04P5 断割り (北から)



SB04P6 断割り (東から)



SB04P7 断割り (東から)



SB04P8 (東から)



SB04P9 断割り (東から)



SB04P8 断割り (東から)



SB04P10 断割り (南から)



SB04 調査風景



水田畦畔断割り (東から)



SB04 南西上空から

## 桜遺跡 3区



出土遺物

福崎町埋蔵文化財調査報告書24

## 桜竹之後遺跡・桜遺跡

—高岡・福田地区ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書—

2022年3月20日発行

編集発行 福崎町教育委員会

〒679-2280 兵庫県神崎郡福崎町南田原3116-1

印 刷 クリヤ印刷所

